

一億総活躍社会実現対話（福岡）  
議事要旨

（開催要領）

1. 開催日時：平成28年3月5日（土）15:20～16:50
2. 場 所：JR九州ホール
3. 出席者：

加藤 勝信	一億総活躍担当大臣
田原 康平	中村国際ホテル専門学校
大野 絢子	福岡大学
上野 雄太	福岡職業能力開発センター
西岡 加奈子	TOTO 株式会社
濱本 祐幸	西部ガス株式会社
隈 扶三郎	（株）西部技研代表取締役社長
村上 浩子	株式会社ビー・ピー・シー
梅林 末男	ロケット石鹼株式会社
角田 保奈美	砂山保育園
田中 瑞穂	麻生医療福祉専門学校福岡校
安永 周平	特別養護老人ホームよりあいの森
立山 利博	特定非営利活動法人なおみの会代表

（議事次第）

1. 開会・アナウンス
2. 開催挨拶
3. 意見交換
4. 閉会

（概要）

○司会 皆さま、こんにちは。本日は「一億総活躍社会実現対話」にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。本日は加藤一億総活躍担当大臣にお越しいただいております。皆様と共に「一億総活躍社会」への実現について対話を行ってまいりたいと存じます。申し遅れました、私本日の司会をつとめます飯塚 仁美と申します。どうぞ皆様よろしく願いいたします。それでは、さっそく始めて参りたいと思います。ご主演の皆さまにご登壇いただきたいと思っておりますので、皆さま大きな拍手でお迎えください。それでは続きまして、加藤勝信一億総活躍担当大臣にご登壇いただきたいと思っております。大きな拍手でお迎えください。では、ステージの皆さまどうぞご着席ください。

それでは、開催にあたりまして加藤勝信一億総活躍担当大臣よりご挨拶をいただきたいと思っております。加藤大臣、よろしく願いいたします。

○加藤一億総活躍担当大臣 皆さん、こんにちは。ご紹介賜りました一億総活躍担当をさせていただいております加藤 勝信でございます。今日は「一億総活躍社会実現対話」、その会合をこうして主催しましたところ、本当に多くの皆さま方に足を運んでいただきまして、あらためて御礼を申し上げたいと思います。また、今日は意見交換をしていただく皆さん、ありがとうございます。そして会場には、私共同僚の国会議員の先生方もありがとうございます。

今、4月今年の春に向けてニッポン一億総活躍プランの策定を進めているところでありますけれども、この策定を進めるにあたりましてそれぞれの方々から意見を聞いていく、その地域でお話を聞く、そういう形でこの実現対話を進めております。今日は仙台、東京そしてここの福岡と3回目の会合でございますけれども、福岡の皆さまからあるいは九州地区の皆さん方からその地域の実情、そしてそれを踏まえた一億総活躍プランに対するご意見をしっかりお伺いさせていただいて、プランの策定に、また国民会議での議論に反映をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、議論をしていただく前に、私共が進めていこうとしております一億総活躍社会、どういうことを思い、何を考えているかを若干お手元にありますパンフレット、あるいはこの会場のスライドを使って私の方から説明をさせていただきたいと思います。

一枚目をお願いいたします。長くデフレが続き経済が低迷している、これをどうにかしようということで3年前にアベノミクス、いわゆる三本の矢、金融財政政策、成長戦略ということでやってまいりました。その中で、企業の利益等随分変わってまいりましたけれども、今私共は一億総活躍社会、ここにありますけれども若者高齢者、女性も男性も障害のある方々も、国民一人一人が家庭地域職場でその持てる力を最大限に発揮でき、生きがいを持てる社会、まさにこれが一億総活躍社会、この実現を目指していきたいと思っております。その中で今申し上げました、これまでまさに経済の循環をしっかりとしていこうということで、三本の矢、これを進めてまいりました。その中で企業の収益は、ここ数年過去最高の成績ということになっておりますけれども、それを通じて雇用や投資、あるいは賃金の拡大、そしてそれが個人消費を増加させて、さらにその企業収益を増やしていく。まさにこの経済の好循環、これをよりしっかりと強いものにしていこうと、これが今回の新しい希望を生み出す強い経済、一本目の矢でありました。そうした経済好循環をまさにこの次の大きな流れにつなげていきたい。ここで生まれてきた成長の果実、これを使って夢をつむぐ子育て支援、あるいは社会保障を充実させていくことによって女性や若者などが社会活動や地域職場などでより一層働ける状況を作っていきたいと思っております。そしてそのことは、まさに労働力全体が拡大していくということのみならず、様々な方々が例えば働くということに参加をしていただく、まさに多様性溢れる社会が実現をしていく。そうしたことがさらにイノベーションを通じ

て生産性の向上を引き起こしていくと、経済成長にもプラスになっていく、まさに経済成長と分配、この好循環をしっかりと引き、実現をしていきたいと、これが私共の考える一億総活躍社会であり、まさに新たな経済社会システムを作っていこうという試みであります。

次のスライドをお願いいたします。そういう中で一本目の矢であります、希望を生み出す強い経済、現在個人消費の改善のテンポが遅れております。設備投資も決して強くありません。あるいは人手不足も顕在化しています。こういう課題に対して、この真ん中にある政策を実現していくことでGDP600兆円の実現を図っていきたいと思っております。例えば、最低賃金についても今全国平均798円でありますけれども、それを2020年頃には1,000円に年率3%を目途に引き上げていきたいと。ちなみに、地元の福岡県は743円、また他の地域は693円から694円、その水準を毎年3%引き上げていく、そうしたことを通じてGDP600兆円の実現を図っていきたいと思っております。

次のスライドをお願いいたします。そして二本目の矢は、夢をつむぐ子育て支援であります。今結婚や子育てをめぐる様々な課題、例えば機会が少ない、経済的な基盤が弱い、あるいは両立がしにくい、あるいは一人親家庭においては大変ご苦労されておられる、こういった課題を抱えているわけであります。それに対して様々な施策を打つことによって、若い方々が結婚したい、そして子どもを持ちたい、そういう希望を実現できる状況、希望出生率1.8、これを実現していきたいと思っております。具体的には、例えば多様な保育サービスの充実、やはり今待機児童の問題がこの福岡でもあるわけですが、保育サービスの整備料、2013年から17年、この5年間で40万人分の児童を受け入れようとしていたわけですが、それをさらに10万人上乗せして50万人プラス $\alpha$ を図っていこうと、そして当然そのためには保育士の方々の待遇の改善を通じた保育士の確保、こういったことをしっかりと進めていかなければならないわけであります。

次のスライドをお願いします。そして、第三の矢でありますけれども、安心につながる社会保障。高齢化が進む中で働き盛りの方々が配偶者やご両親の介護が必要になって離職をするという状況が生まれているわけであります。働き盛りの方がお辞めになる、個人にとっても社会にとっても大変大きな損失であります。そして、介護は誰もが直面し得る課題であります。そうした問題に対して、介護サービスの不足、介護があった時にどういう対応をしたら良いかという不安、あるいは実際の両立、こういったことをこうした施策で展開をしていくのみならず、やはり介護が必要な状況になっていかない、そういう意味での高齢者の健康維持、こういったことも進めていく必要があります。例えば、この介護サービスの基盤確保ということでもありますけれども、介護施設、住宅サービス等の整備料を2015年から2020年に掛けて今の計画よりも12万人プラスをして、50万人分の増加を図っていこうと今進めているわけであります。当然

その場合にも、介護を支える人材を確保していく待遇改善、こういった問題もしっかり対応していかなければならないわけであります。

次のスライドをお願いいたします。そうした三つの矢と併せて、私共は大きく二つの課題があると考えております。一つは生産性を上げていくということであり、我が国の経済成長を図っていくためには、一般的に経済成長は労働人口が増えていくか、資本が増えていくか生産性が上がっていくか、この三つで決まってくると言われているわけであり、人口減少ということに直面している我が国がそれを乗り越えていくためには、生産性を上げていく、このことが不可欠であります。今、過去最高の収益を記録している企業の収益、こういったものを活用して未来への投資、そして生産性の高いそうした投資をしっかりと実現をしていく、そういう中で例えば第四次産業革命と言われる、IoTインターネットオブシングスやビッグデータ等々を活用していきたいと思っております。

そして、次のスライドをお願いいたします。そしてもう一つ大きなポイントは、働き方改革であります。希望出生率1.8や介護離職ゼロを実現するためにも、働き方というのは大変大きな課題になっています。やはり一つは非正規の雇用労働者の方々の実態であります。今、35歳以上で出産を機会に仕事を辞める、しかし一段落ついたから働こうとする方、どうしても子育てもあるということで非正規を選択する傾向が高いわけであり、そうしたこともあって、今非正規の労働者の方々が約4割、働く方々のうちの約4割が非正規の方であります。しかしその賃金水準を見ると、やはりフランスやドイツは約9割から8割、フルタイムの方に対してパートタイム労働者の賃金は8割から9割に対して、日本は6割、中身は色々あるかもしれませんが、やはり低い水準と言わざるを得ないと思っております。こうした非正規労働者の方々の待遇改善を図っていくためにも、私共は同一労働同一賃金、その実現に踏み込んでいく必要があると考えております。

続いて長時間労働であります。我が国の場合、2,000時間でだいたい推移をしてきております。そして、30代男性で週60時間以上働く人の割合は約2割、これは国際比較の場合には49時間ということであり、それでも他の国と比べてもかなり高い水準になっております。こうした時間外労働を抑制する等を通じて、長時間労働というものを是正していかなければならないと思っております。

そしてもう一つは、やっぱり高齢者の方々に元気で頑張る意欲を持っていただくためにも働く、そうした場を確保していく必要があります。特に65歳までは今継続雇用という形になってはいますが、さらにそれを超えて働きたいという方が7割おられます。しかし、実際に働いている方は2割。そして今は60歳から65歳に雇用を継続できるようにしておりますけれども、だいたい継続雇用制度、そこで雇用形態が変わっていく、定年をそのままと言ってそのまま働

き続けるのというのは約2割弱ということであります。そういう意味で定年を延長しようとする企業、あるいは65歳からさらに働ける、こういう企業をしっかりと応援していく中で、高齢者の就労促進、雇用促進を私共は図っていきたいと思います。

そして、最後のスライドをお願いいたします。そしてこの地元、九州沖縄の状況を簡単に申し上げておきたいと思います。もうご承知のところかもしれませんが、九州沖縄は今この辺が2015年でありますけれども、この青いカーブが65歳以上の人口がどう増えていくかということであります。ほぼ全国と同じように、これからもさらに人口が増えていくと、こういうことになるわけでありまして高齢化がさらに進んでいく。そして九州沖縄の特徴としては、この合計出生率、この後ろ側にあるのが昭和60年の水準であります。それよりもどの地域も当然下がっているわけでありますけれども、しかし総じて見ると、福岡は若干低いのですけれども、それ以外の地域は全国平均に比べて0.2ポイント前後高いということで、出生率が他の地域と比べて高いと言えると思います。

それから、もう一つ女性の就業率でありますけれども、これも福岡は全国並みですけれども、多くの県においてはより女性の働く人の割合が高いということでありますから、まさにこの地域は多くの女性の方が働きながら子供を産み、育児をしていただいていると、こういうことが言えるのだらうと思います。そして、65歳以上の有業人口。ここは逆に全国平均に比べて少し低い水準になっております。そして介護の認定率は逆に高い水準になっているわけであります。やはり生涯現役という社会を考えて、より働き得るような状況、そしてこの介護の問題、こういったものにもしっかりと取り組んでいくことが必要なのだらうなと感じているところでございます。それでは、これから登壇されている皆さま方に意見交換をしていただきながら、議論を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○司会 加藤大臣、どうもありがとうございました。それでは、意見交換を始めていただきたいと思います。ここからの進行は、木下賢志内閣官房一億総活躍推進室室長代理補をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○木下一億総活躍推進室代理補 ご紹介いただきました内閣官房一億総活躍推進室の木下でございます。本日壇上の12名の皆さま方と加藤大臣との意見交換の進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、ステージに向かって右側から順に、それぞれのお立場でのご経験あるいは一億総活躍社会の実現に向けたご要望などをお伺いしたいと思います。また、進行の途中で加藤大臣との若干の意見交換を挟みたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

それではまず初めに、ホテル業の専門学校生の田原 康平さん、お願いいたします。

○田原氏 こんにちは。中村国際ホテル専門学校で田原 康平と申します。本日はよろしくお願いいたします。私は今の専門学校に入学する前は、4年制の大学の法学部を卒業しておりまして、今のホテル専門学校に入学いたしました。ニュージーランドでの海外でのホテル実習や国内ホテルの実習の経験もしております。お蔭さまで東京の六本木ヒルズにあります外資系ホテルに就職することができました。なぜ大学卒業後に専門学校への道を選んだかと言いますと、大学教育にはない実践的なことを学びたかったからです。ホテル専門学校を選んだのは、観光やホテル産業というものがこれからの日本の産業経済を支える重要な基幹産業となり、大きなビジネスマーケットになり得ると思いました。そして私自身、人と接する仕事がしたかったので観光業界の中でも特にホテル業界の道を選びました。実際に今のホテル専門学校では数カ月間の国内ホテルや海外ニュージーランドのホテルでの現場実習がカリキュラムに含まれており、自分の経験値を高めることができました。また、語学力や知識の取得だけではなく、海外で様々な文化や風習、価値観を持った人たちと働くことにより、自分自身の考え方や価値観も大きく変わりました。観光産業は日本の基幹産業になりつつあります。昨年においては約2千万人も外国人客が日本を訪れましたが、一方ではホテルや旅館といった宿泊施設が足りないとも言われており、同じくそれに携わる人たちも足りないと言われているのが現状です。このような状況を解決するためにも、今私が通っている専門学校やホテルスクールといった専門の実践や実学的な学びの場を整え、高校卒業後の18歳の学生だけではなく私のような大学卒業者や社会人に対しても、いつでも学校に通える社会のシステムづくりや環境が必要だと私は思います。

来月から私は社会人として働くこととなりますが、いずれかはアメリカの大学院にホテル学を学ぶためにチャレンジしたいと思います。今後のキャリアアップのためにも、観光業やホテル業についてもっと専門的に学びたいと思います。誰でも自由に年齢や性別、学歴キャリアに縛られることなく、生涯にわたって教育を受けることができる社会システムづくりが、これからの日本のグローバル化を支えていくと思います。以上です。

○木下一億総活躍推進室代理補 ありがとうございます。次に大学生の大野 絢子さん、よろしくお願いいたします。

○大野氏 はい、福岡大学人文学部東アジア地域言語学科四回生の大野 絢子と申します。私が政府に期待することとしては、就職活動の日程の確立、国際交流の推進、多くの学生が留学に行きやすい環境を作り、同時に日本にも沢山の留学生を受け入れる仕組みを作る。この3点です。

まずは、就職活動ですが、昨年私も3月から就職活動を始めました。しかし、私達の年から就職活動の期間が変わったために、仕方がまずは変わってしまい、先輩方からもお話を聞くことが難しかったところがあります。また、企業側からも突然変わった期間に探り探りで活動をされていて、私達の本質をなかなか

見てもらえなかったなという印象があります。また、時期をずらして勉学に励むと言われていたのですけれども、毎日のように説明会はあり、大学にまともに通うこともできませんでした。また今年も就職活動の期間が変わったということを知っていますので、そういう部分をもうちよっと確立させていただきたいなと思っています。

もう一つは、国際交流の推進についてです。私は昨年内閣府の国際派遣事業である日本・韓国青年親善交流というものに参加しましたが、広報活動が足りないからかあまり参加者がおらず、あまり知られていない事業のように感じています。しかし、もっと色々な方にこの事業知っていただきたいですし、留学やワーキングホリデーなどでは体験できないホームステイや、相手国の政府の方ともお会いできる素晴らしいチャンスだったので、そういう経験をもっと色々な方向で活かしてもらえるシステムづくりをしていただきたいです。

最後に、私は2年前に韓国の釜山大学の方へ交換留学生として行ったのですが、韓国では留学生に奨学金を沢山出しているという話を聞きました。また、沢山の国の学生が韓国に学びへ来ていましたし、逆に韓国の学生が色々な国に留学に行っている姿も見ました。日本は留学に行く人も少なければ、留学生も少ないように感じています。留学に行って外の世界を見ることは、自分の成長上ですごく重要なことだと今も感じています。もっと海外に行くという壁を少しでも小さくできるような活動が必要なのではないかなと思っています。以上で終わります。

○木下一億総活躍推進室代理補 ありがとうございます。次に職業訓練中の上野 雄太さん、お願いいたします。

○上野氏 はい、私は福岡職業能力開発促進センター訓練生の上野 雄太と申します。私は当センターにおいて金属加工技術科の訓練生として、日々訓練に励んでいます。なぜ私が訓練生になろうと思ったのかと申しますと、前職で鉄鋼材の販売業として鋼材を扱ううちに、それらの鋼材を用いて溶接を行う溶接工の方々の技術力の高さを目にし、自身もその技術を身に付け、いずれはその技術を持って地域社会の発展に貢献できるような人間になりたいと思ったからです。その思いを持ってセンターに入所しましたところ、素晴らしい設備、素晴らしい先生方、素晴らしい仲間たちと出会うことができました。必ずさっきに述べた思いが実現できると自分自身信じています。そんな恵まれた環境である当センターですが、私が所属する金属加工技術科は現在定員割れを起こしています。技術の取得が容易な設備、プログラム内容、そしてそれらを用いて最大限の熱意で指導にあたってくださる先生方がありながら、それらが少数の訓練生にしか伝わらない現状は非常にもったいなく残念に感じます。この現状を改善するには、公共職業安定所での職業訓練校の存在をもっと大きくPRしてもいいのではないかと考えます。確かに私は離職の際、公共職業安定所で職業訓練校の説明を受けましたが、中にはその場の説明では内容を理解できずに流して

しまい、今まで知らなかった職種や自分の能力に気付かないまま、万年と職を探している方もいるのではないかと思います。職業訓練校のその内容をもっとPRし、訓練を受けることによって身に着く技術、心構え、そしてやりがい気付くことが、職業そのものに対して関心や興味を持つことにつながり、ひいては一億総活躍社会を実現する一人になれるのではないかと思います。私は現在、就職活動中の身です。まずは私自身が職に就き、自分の考えを体現することで一億総活躍社会を実現させる一人になれるよう努力します。以上です。ありがとうございました。

○木下一億総活躍推進室代理補 ありがとうございました。それではここで、若干の意見交換をさせていただきたいと思います。加藤大臣の方からご発言をお願いいたします。

○加藤一億総活躍担当大臣 はい、ありがとうございます。3人の方はそれぞれの立場から、就職ということに対して、あるいは教育ということに対してお話をいただいたと思います。まずは、田原さんですけれども、ご自身大学を出てからさらに自分の行きたい方向を絞り込んで、ホテルに行こう、ホテルで働こうということでもありますけれども、この絞り込んでいった時に、大学から専門学校にもう一回行こうと思ったときは何がきっかけだったのですか。

○田原氏 はい、もともと大学時代、就職活動では観光業を主にやっていたのですけれども、自分自身、国際的に国際人として働きたい、語学を使って海外で働いてみたいという思いがありまして、自分自身、人とコミュニケーションを取ることも好きでしたし、人と接することも好きでしたので、その中でホテル業が一番自分に向いているということで、今からもどんどん伸びて増えているということで、ホテル業が一番自分に向いているのかなと思い、行きました。

○加藤一億総活躍担当大臣 よく会社に入ってから色々勉強してというよりも、やっぱりしっかりと技術のあるいは専門知識を見てから、そうした社会に行きたいということで専門学校を選ばれたと、そういうことですか。

○田原氏 はい。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。また、これからもう一回大学院でキャリアアップを考えられているので、そういうことができるような仕組みを求められていると思いますし、また今大学もより実践的な、そういった大学もつくっていかうということで、今システム設計をさせていただいているということを申し上げておきたいと思います。

それから大野さんは、ちょうど就職のやり方が少しずれたちょうどその時期で、実は私もそっちの関係の担当もしているのですけれども、また留学もされていた。そういう立場から今回の就活に関してもう少し具体的にご意見があったらお聞かせいただきたいと思います。

○大野氏 私は前年に留学に行っていた関係もありまして、インターンシップ



というものに全く参加ができなかったのですけれども、結構会社様によってはやっぱりインターンシップを重要視される会社様もあって、どうしてもそういう会社様は受けられないという事情もありましたし、あとは時期が突然変わったので、大学の就職活動支援センターの方も戸惑いながらされていたという印象がありますし、また自分達も手探りの中、就職活動をやっていて、また企業さんも同じように手探りでみんながやっている状況でしたので、それはすごく大変だったなと感じていますし、今年の学生もまた時期が変わって、また一から手探りの状況だと思うので、それはちょっとやっぱり大変かなと思います。

○加藤一億総活躍担当大臣 最後に上野さん、仕事をされていてそして溶接工にということで、そしてまた今職業能力開発センターで勉強されているのですけれども、まさに自分の思う所を目指して、また勉強しまた次にいくという、それは一つ素晴らしい姿勢だと思うのですが、それを自らやってみて、もう少しこういう支援があれば不安なくそういうことにチャレンジできるという部分があるのだろうと思うのですが、その辺で何かご意見があればお願いしたいと思います。

○上野氏 そうですね。まず私が所属する金属加工技術科は15人入れるのですが、現在7人しかおりません。将来東京オリンピック等を控えておりますが、技術者というのは必ず必要になると思います。その関係でもっと職業安定所で訓練校のPRしてもらえば、もっと多くの技術者が育てられるのではないかと思います。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

○木下一億総活躍推進室代理補 はい、では次に進みたいと思います。次に、育児のために短時間勤務をされておられます西岡 加奈子さん、お願いいたします。

○西岡氏 TOTOT株式会社の西岡加奈子です。よろしくお願いいたします。私は現在、始業30分、終業1時間の合計1時間30分、短時間勤務をしております。子どもが2人おります。

最初の1人目の育児休暇の復職からは、最初はフルタイムでも働いていたのですけれども、やはり子どもの小学校の入学を考えるようになり、保育園を自宅の近くへ転園したこと、また私も夫も両親が県外におりまして、日々頼ることができないので、就業30分の短時間勤務を利用しました。当時は周りに利用している人があまりいなかったもので、毎日遠慮をしながら帰っていたという記憶があります。現在、2人目の育児休暇の復職からは1時間30分、短時間勤務を利用しておりますが、今私が思っていることは、やはり限られた時間の中でやるべきことへの成果を出すという気持ちで日々働いているということ。また、1人目の時はなかなか帰りづらかった状況もあるのですけれども、私は1人目と2人目の年齢差が8歳になっておりまして、やっぱり8年間の間で女性活躍、育メンや育ボス等といった女性を取り巻く環境が変わったと思いました。1人

目の時はあまり浸透していなかった短時間勤務という制度も利用者が増えて、育児休暇明けの人が多く利用するようになっておりました。私は1人目の時はなかなか悶々としてしまったのですけれども、やはり短時間勤務という制度がなければ働き続けることをあきらめていたのではないかなと思っております。女性を取り巻く制度や環境というのは充実してきているとは思いますが、やはり家事や育児の負担というはまだまだ女性が担っている部分が多いと思っております。もっともっと男性の家事、育児参画に柔軟な社会になればと思っております。男性の育児休暇取得、短時間勤務利用は当たり前というような社会、置かれている立場や状況というのは人それぞれです。だからこそ、多様な働き方に柔軟に対応できる支援や制度のある社会になることを期待しています。以上です。

○木下一億総活躍推進室代理補 ありがとうございます。次に、超過勤務の縮減に熱心な企業で勤務をされておられます、濱本 祐幸さん、お願いいたします。

○濱本氏 西部ガス株式会社、濱本と申します。よろしく申し上げます。弊社では、10年ほど前から、労働時間管理とライフワークバランスの推進の両面を意識した働き方の見直しを取り組んでまいりました。直近では、生産性向上による会社の業績向上と社員のワークライフバランスの実現を目指して、仕事のリフォーム推進活動を行っております。この活動につきましては、仕事の質、量の両面の負担感の緩和、必要性の低い時間外労働や休日出勤を減らすことによる不要コストの削減、育児支援や大介護時代をみすえた時間的制約を前提とした働き方の改善、転換等、3点を重点課題として取組を進めております。業務そのものの見直し、仕事の進め方の見直し、またマネージメント労務管理の徹底を進めております。

こうした中、私の職場では毎朝、行動ミーティングを行っております。昨日、何をやったのか。今日、何をするのか。課題は何なのか。目標の進捗であったり、また何か悩んでいることはないかななどを朝、確認をし合っております。

これによって、個人個人が業務に取り組む上での意識が高まりまして、いつまでに何をするとか、この日は休む等が明確になり、効率よく業務を進めることができるようになりました。これは業務の負荷の平準化につながると共に、自然なコミュニケーションが生まれ、職場の活性化にもつながっております。私自身も以前は残業が当たり前の仕事をしてまいりましたが、目的意識をもって、メリハリつけて働くようになりました。その結果、家族の時間、自分の時間ができるようになりましたので、本当に充実した時間を過ごしております。

政府や社会への期待、要望としましては、私も子どもがおりますので、私子ども頃の頃と比べて、少年犯罪が増えているように感じております。親としては子どもには夢を持って何事にも挑戦しながら生き生きと育てて欲しいと思っ

ておりますので、私の勤め先では積極的にワークライフバランスの取組を進めておりますけれども、それがまだ進んでいない企業もまだ多いというふうに聞いておりますので、その将来を担う子どもたちに安心して生き生きと生活ができる社会を作るために、これまで以上のライフワークバランスの推進をお願いしたいと思っておりますし、継続的な情報発信をお願いしたいというふうに思っております。以上でございます。

○木下一億総活躍推進室代理補 ありがとうございます。次に、経営者の立場の方でございますけれども、超過勤務の縮減などに取り組んでおられます、隈 扶三郎さん、お願いいたします。

○隈氏 西部技研の隈と申します。当社は古賀市にございまして、特殊な空調装置を作っている会社です。当社も以前は本当に典型的な男性中心の職場でした。残業や休日出勤で長時間働くのは当然の組織文化でした。しかし、結婚や出産というライフイベントで非常に優秀な女性社員のほとんどが退職する状況を改善すべく、2008年から、女性キャリアアップ制度というのを作りまして、研修やメンタリング等を実施し、また、女性の新卒採用枠を拡大する等の施策を打ってまいりました。その過程で、女性の活躍を推進するためには、まず上司や男性側の意識を改善することや、慢性的な残業を是としている社内の雰囲気を変えることが必要であると認識するようになってきました。それ以降は、残業時間を削減するために、全社的に午前10時～11時半までを私語を禁止にしまして、原則電話や会議も行わない集中タイムとしまして、オフィスワーカーの作業効率の向上を図ると共に、残業についても総務部への届け出制としまして、部署内で安易に残業ができない仕組みにしました。

また一方で、男性社員の働き方を見直すために、年に一度は土日を挟んで有給休暇を5日連続で取得してもらおうという、いわゆる9連休をとる制度、ポジティブオフという制度を導入しました。また、男性にも育児のために3日間の特別休暇が取得できるようにもしました。さらに、残業時間の削減といった働き方の改善だけでなく、自身の行っている業務を見直して、会社の中で与えられております役割や働きぶりを向上されることに主眼をおきました「新ワークスタイル八か条」といったものを作成しまして、社内での浸透を図ってきました。

こういった取組によって、社員の方々の仕事に対する意識と働き方もじょじょに変わってきているのかなというふうに思います。また当社では、女性だけでなく外国籍の社員やベテラン社員、パート社員も生き生きと働いていただけるような制度を策定し、さまざまな施策を実行しております。

昨年、当社は創立50周年を迎えましたけれども、その際に、100年企業を目指すという新たなビジョンを掲げました。その原動力の一つが、多様な人材が活躍できる社風を確立することにおいております。

政府に対しては、そういったダイバーシティ経営を推進する企業、特に中堅、

中小企業を積極的にサポートするための政策を実施していただくようお願いしたいと思います。また我が国においては、今後、多様な人材が前向きに働ける基盤と社会的雰囲気醸成されていくことを大いに期待しております。以上です。

○木下一億総活躍推進室代理補 ありがとうございます。それでは、ここで若干の意見交換をいたしたいと思えます。加藤大臣の方からよろしく願いたします。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。お三方については、働き方についてご意見をいただいたと思えます。まず最初に、西岡さんにいろいろお聞きしたいのですけれども、やはり短時間勤務の中でやるべきことについてきちんとした成果を出す。逆に言えば、短時間勤務ということはある意味ではどうどうとやっていけるといこと。あと、もう一つは短時間勤務だから管理職になれないわけではないと思えるのですけれども、その辺を含めて、やるべきことってどういう形で、あるいは成果ってどういう形で評価されているのか。そして、働いておられる会社で、短時間勤務しながら管理職をやっておられる方、いらっしゃいますか。

○西岡氏 まず、管理職で短時間勤務をしている人なのですからけれども、ちょっと人数までは把握してはいないのでありますが、ゼロではないという状況になっております。成果と評価についてなんですけれども、私も最初はやはり、肩身が狭いというか、帰るから申し訳ないという気持ちばかりがあって、そればかり悩む時間に費やしてしまっていて、実際ふたを開けてみたら、仕事もできてない。その言い訳が、時間がないからということをやっている自分に気がついたので、なんていうのでしょうか。例えば女性だと、おトイレとかお茶のところとかでお話をしたりするのでありますが、私自身、そういうことに時間を使うことをまずやめました。やはり制度に甘えてはいけないと思っておりますので、そこをきちんとやっている。そうすればやはり周りも見てくれていると思えますので、「すいません、出張に行けないのですけど」と言うのと快くいってくれるというような状況になってきておりますし、やはり上司がきちんとそういうのを見て、評価をしていただいているというのが大きいのではないかと考えております。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。続いて、濱本さんのところも、超過勤務の縮減に積極的なところでおられる。スローガンとしては、みんなやろうよと。じゃあ、それを具体的にどうやって、しかも仕事って毎日毎日ありますよね。それをいかに効率的にやるっていうのがもう一つ求められているのですけれども、その辺に対する取組、あるいは働いている会社が縮減に成功した、秘訣みたいなのはありますか。

○濱本氏 まず、最初は戸惑いもあったのですけれども、全員がまずは個人個人目標を持ってやっておりました。こういうことをやるってふうに目的意識をは

つきり持たせるということと、時間外を減らすというわけではなくて、時間外出るときはやって、次の日は朝、フレックスで出てくるなど、効率良くやることを目的としていますので、特に削減をすることが目標ではなく、効率を上げることが目標にする意識で、全員が取り組んでいるのが現状だと思います。

○加藤一億総活躍担当大臣 フレックスな働き方を取り込んでいるのですね。

○濱本氏 そうですね。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。そして、隈さんはまさに経営者として、そうしたことを、実践をされてきて、しかも60年という長い歴史のある企業の中で、非常に変革を進めておられるというふうに、私は印象を受けたのでありますけれども、やはり経営者としていろいろなこと、これ、いいのだけれども、やはり大事なことは経営をしっかり安定させて、収益を上げていく。それが雇用の安定にもつながっていくことですが、こうした取組は、具体的に経営という面において、どういうふうに現れているのでしょうか。

○隈氏 時短とか有給休暇の9連休とか、ポジオフとか、非常に心配した面もあるのですけれども、逆にそういうふうにした方が、社内の雰囲気はよくなって、経営的にも別にしたことによって負の部分があったかというところと全然ないというのが私の印象ですね。ですから、特に、社風が変わっていくといろんな人が働いてくれるようになりますので、そうするとやっぱりいろんな意見が出て、人材の多様化が進むと、創造的な部分、企業の大事な創造性とか、伸びますので、これはやはり、企業にとってはそういう施策を打つことは、逆に経営にとってはプラスに。あの、短期的には落ちる可能性はありますけれども、長期的に見ると非常にプラスになると私は確信しております。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

○木下一億総活躍推進室代理補 それじゃあ、次の方にお話を伺いたいと思います。障害を抱えながら勤務をされておられる村上 浩子さん、お願いいたします。

○村上氏 重度障害者多数雇用企業に勤めております、村上と申します。よろしく願いいたします。

私は生まれつき足が悪く、一般の学校を卒業いたしましたが、就職活動ではこの障害が理由に、大変苦勞をいたしました。現在勤めております会社には、私以外にも心臓、腎臓、聴覚など、いろいろな障害を持った社員がいますが、誰もが仕事がしやすいよう、バリアフリーの恵まれた環境で勤務しております。

私たちが、普通に仕事ができるのは、こうしたハード面の配慮もございしますが、何より会社側が通院をするための時間の確保ですとか、体への負担を軽減するための室内の温度管理、そして聴覚障害者に対する情報の共有化などの工夫や配慮をし、障害について理解してくださっていることが一番大きいと思います。働ける職場があり、仕事ができるということは、社会の一員として認められているようで、自分の自信へとりました。

以前、職場の車椅子の社員との会話の中で、自分の車で、自分で車を運転するので、どこにでもいけるものの、駐車場は困っているとの話がありました。例えばスーパーへ買い物に行っても、障害者駐車場はちゃんと完備されていますが、なかなか空いていないそうです。一般的に障害者駐車場は建物の近くに設置されているため、つい、ちょっとだからという形で停めてしまう方が多いようです。車椅子の方が、車から降り降る際に、自分の車椅子をまず運転席の方に近寄って行って、乗り移り、そして車椅子を畳んで自分の車に自分で積み込みます。その際、運転席のドアを大きく開かなければいけません。雨の日には、降り降るのに時間がかかるため、屋根が必要ですし、車椅子を両手で漕ぐために、傘をさすことができません。こういった理由から障害者駐車場が建物の近くに、そして屋根付きで広く設置されているのですが、このことがあまり周知されていないために起こってしまっている問題だと思います。きっと知っていれば停めなかったのに、とっておっしゃる方が大勢いらっしゃるように思います。大まかに障害者という言葉を知っていても、実際に自分の身近になかなかいないため、接する機会がほとんどありません。なので、社会に出て初めて職場などで障害者と一緒に働くことになったとき、大人でも少なからずどう接すればいいのか、困惑してしまうのだと思います。そのためにも、障害者を知る機会、そして接する機会をもっと増やし、街中で普通に障害者がいるのが当たり前環境になったらと思います。

学校や職場などで目が悪くなれば、メガネをかけて働くように、足が悪いから車椅子に乗って働くことが自然に受け入れられる社会になってほしいと願っています。以上です。

○木下一億総活躍推進室代理補 ありがとうございます。次に、高齢者の方でございますが、現役で勤務を続けておられます、梅林 末男さん、お願いいたします。

○梅林氏 ロケット石鹸の梅林と申します。よろしく申し上げます。

私は今、66歳です。で、56歳のとき、10年前に営業職からボトルを内製化するということで、職場を配置転換になりました。で、内製化とはようはボトルを自分のところで作ろうと。で、コストを下げよう。そういうことでございます。当時、私と部下1名で、2人でスタートしたのですが、それから4年後に60歳を迎えました。本来でしたら、そこで定年退職になるのですが、まだ組織として完全に出来上がっていませんでしたので、そのまま続けてくれと、そういうことでそのまま勤続しました。で、それから10年で、今、部下が24名。それから、成形機を12台、そして24時間体制でやっております。あとおそらく数年で退職になるかとは思いますが、それまでに部下に技術の継承とか、人生観をしっかりと植えて退職したいなと思っております。

それから、私の経験になりますけれども、仕事柄、若い時から酒、それから外食、非常にあったのですが、プライベートではとにかく60歳過ぎたら

体力が落ちるぞということで、趣味のゴルフ、登山、それから畑作業などもやって、体力維持に努めております。で、60歳過ぎて体力がないと仕事も勤められないと、そういうふうに思っております。

それから、我々が最後の団塊の世代になるかと思えます。で、先ほど、大臣からも言われておりましたけれども、60歳の定年がちょっと早いんじゃないかな。昔に比べるとずいぶん、我々の世代は若くなっております。ですから、なんとか65歳に定年をしていただきたい。で、当然、給料面もありますんで、私、半分になりましたけれども、そこを2割、3割カットくらいでなんとかならないだろうか。そういうふうに思っております。で、65歳を定年にさせていただいて、それからあとは、まあ、体力があれば70歳まで、いければいいじゃないかというふうに思っています。どうか、大臣にお願いして、頑張っていきたいと思えます。よろしく申し上げます。

○木下一億総活躍推進室代理補 ありがとうございます。それでは、ここで若干の意見交換を。加藤大臣の方から、よろしく申し上げます。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。村上さんの会社は、非常に障害のある方でも働きやすい環境を作ってらっしゃると思うのですが、働きやすいというのは、まずハード面で配慮すると同時に、会社の上司や同僚の方が、先ほどおっしゃいました理解がないとなかなか難しいと思うのですが、そういったものを、今、働いている会社はどういう形で、障害がない方については教育というのでしょうかね、されておられるのでしょうか。

○村上氏 あの、当社の方は、本当に重度障害者を多数雇用するために始めから考えられてできた会社でしたので、ハード面に関しては初めから問題なくクリアされておりました。で、あと理解していただくという部分では、やはり一番初めのうちは、お互い戸惑いがあったと思うのですが、長年勤めております間の中で、こういった障害にはこういったことを配慮した方がもっと働きやすいんだ、ですとか、そういったことで少しずつ改善されていきました。

特に、聴覚障害者の部分というのは、なかなか意思の疎通ができなくて、みんながどういった情報を持っているかということで孤立してしまうことが多かったので、できるだけ情報を共有化するようにいたしましたし、せめて手話ですね、聴覚障害者同士がお話しするのですが、私も含めて手話が分かりませんでしたが、挨拶ぐらいは、おはようですとか、お疲れさまぐらいはご挨拶、手話でできるようにということで、そのぐらいのお勉強をさせていただいて、コミュニケーションを図っております。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。それから、梅林さんのところは、ちょっと給料を下がったけれども、60歳を超えてさらに70歳に向けて、仕事ができる環境になっている。これは梅林さんだけではなくて、ほかの方も同じような契約になっていると思うのですが。

○梅林氏 最高は73歳の女性がおります。

○加藤一億総活躍担当大臣 ああ、そうですか。

○梅林氏 社内的には、働ける間は働いていいよというふうなシステムというか、会社の方針というか、社長の方針ではあります。

○加藤一億総活躍担当大臣 それは、偶然からそういう形でやっておられる、それとも、ある時にそういう働いてきた方々の経験とかそういったものをもっと活用しなきゃというふうに、上の方が判断されて制度を改善したわけですか。

○梅林氏 そうですね。社長自身が私と同じ団塊の世代ですから、そこらへんも十分考えてやられていると思います。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

○木下一億総活躍推進室代理補 次に進みたいと思います。残りの方、4人おられますけれども、続けて順次、お話し伺いたいと思います。保育士として勤務をされておられます、角田 保奈美さん、お願いいたします。

○角田氏 角田 保奈美と申します。よろしく申し上げます。

私は、今、認可保育園で保育士をしています。私が保育士になったきっかけは、私が10歳の時に生まれた弟の存在でした。弟のお世話をしているうちに、小さい子に興味を持ち、将来子どもに関わる仕事がしたいと思うようになりました。そして、学校の職場体験等で乳幼児期というのは、人と出会い、人として育つ、もっとも大事な時期だということを知り、さらに保育士という仕事に憧れを持ちました。その後、保育科の大学を目指し、4年間勉強して保育士になることができました。そして、現在3年目。4歳児クラスを担当しています。

私が保育士になって実際に現場に立ってみて感じたことは、保育士の仕事というのは、日々の保育に加え、一人一人の計画だったり、記録、次の日の保育の準備、さらに子どもだけでなく保護者の支援など、高い専門性が要求される仕事だということです。例えば、乳児保育では、一人一人の命を預かり、用語的な機能を生かして言葉や発育を促し、応答的な関係の中で人として基本である愛着の形成などを、大切に保育をしています。

このような日々の積み重ねで、子どもたちの成長を感じることができたり、一緒に思いっきり笑ったり、悩んだり、時には真剣に向き合ったりと、充実した日々を送ることができています。

また、1年の行事等を通して、季節を身近に感じることができ、これは保育士以外の仕事ではなかなか感じることはできない、仕事の魅力の一つだと私は思います。子どもたちの笑顔に囲まれ、人としての育ちに関わることができる、保育士という仕事は、本当に素晴らしい仕事だと思います。だからこそ、もっと若い学生の人たちに、この仕事の魅力を知ってもらいたい。保育士になりたいと思ってもらえることや、潜在保育士さんたちにも現場に戻ってきて欲しいと強く感じます。

現在、全国的に潜在保育士は約60万人いると言われていています。現場に戻らない原因として、待遇の面だったり、家庭との両立が難しいという現状がありま



す。今の政策の中で、処遇の改善、それぞれの施設への人材確保のための交付金や奨学金などの方策を行っていただいているのは承知していますが、しかし現実的にはそれではまだ潜在保育士や、保育士になろうとしている人たちの確保はできていません。

私はこの保育士という仕事を一生の仕事にしたいと考えています。しかし、将来、私も結婚や子育てを考えていったときに、続けていけるかどうか、不安な気持ちがあります。子どもにとって大切な6年間であるのに対し、そこに関わる保育士に見合った処遇がついてきていないのではないかと思います。

待機児童の解消、保育士不足の解決に繋げていくためには、まず処遇の改善が必要です。私の園では、子育てをしている保育士に対して、働く一人の女性として家庭を第一に考えられるような配慮を園全体で行っています。しかし、このような配慮が全国的にどの園でも行われているのではなく、働く女性の環境づくりは大切な課題だと思います。いろいろな課題が山積している中ではありますが、是非、この仕事に誇りを持ってしている私たちに、働き続けられる社会的な配慮をお願いしたいです。明日の日本を担う子どもたちのために、そして働く女性たちのためにも、よりよい環境になりますよう、切望いたします。以上です。ありがとうございました。

○木下一億総活躍推進室代理補 ありがとうございました。次に、介護の仕事を、現在勉強されておられます、田中 瑞穂さん、お願いいたします。

○田中氏 麻生医療福祉専門学校ソーシャルワーカー科2年生の田中と申します。私は今、現在、学校で介護・福祉の勉強をしています。学校に入学する前には、介護職として4年間、特養とグループホームで働いておりました。今日はその経験を踏まえて、お話しできたらと思っています。よろしくお願いいたします。

私は、一般大学を卒業して、未経験、無資格のまま、介護の仕事をスタートしました。専門学校や大学で、専門的に介護を学んでこられた方、私のように新卒ではあるけれども、介護とは関わりのなかった方、全く違う業種から転職されてきた方など、いろいろな方が現場におられました。介護を学んできた方はもちろん、未経験、無資格の方にもいかに職場に定着してもらうかというのは、人手不足が言われている現状を考えると、とても大事になってくるのではないかと思います。

新人指導に力をいれてらっしゃる施設さんももちろん、たくさんあるとは思いますが、普段から忙しいところが多いのではないかと思います。普段の業務に加えて、丁寧な指導をしていくのは厳しいというのが現状ではないかと思えます。新たに入ってくる職員さんが定着しづらいと、結果として人手不足が十分に解消されず、あっという間に中堅、ベテランになってしまい、新人からベテランへのスパンが短いということがあると思えます。介護職の離職率の高さは、ほかの業種と比較しても高い方だと思えます。介護の仕事にいかに定着し

てもらうかを考えると、単純に人を増やせば解消できる問題ではないのではないかなというふうに感じました。

また、長く働く上で、資格取得のための勉強や研修というものはどうしても必要になってくることがあります。研修に参加したいと思うと、業務時間外や休日を使っていくことが多く、なかなか積極的には取り組みづらい状況だと思えます。仕事をしながらの研修参加というのは負担が大きいと思えます。福祉系の専門学校や大学を卒業していない方にも、介護業界に定着してもらうには、こうした研修の受けやすさというものも重要になってくるのではないかと思います。

最後に、今現在、福祉系の専門学校や学部が減っていく中で、生徒数もまた減少していています。生徒数の減少によって、さらに福祉系の専門学校、学部の数が減ると、ますます福祉の人材確保が難しくなってくると思えます。介護の仕事にはまだまだネガティブなイメージで語られることも多いですけども、たくさんのうれしいや楽しいが詰まった仕事だと思っています。介護の仕事が進路の選択肢として、もっともっと魅力あるものとなるように、今後の加藤大臣のご活躍に期待しております。以上です。

○木下一億総活躍推進室代理補 ありがとうございます。次に、特別養護老人ホームに勤務をされておられます、安永 周平さん、お願いいたします。

○安永氏 特別養護老人ホームよりあいの森に勤めております、安永です。よろしく申し上げます。

高齢者福祉の職についてはや10年がすぎました。これまで特別養護老人ホームや宅老所、居宅介護支援事業所に勤めました。全てが現在の職責に繋がるための良き経験となっています。

高校を卒業して、建設作業員などの職についていた私は、ホームヘルパー2級の資格を取得して、全く畑違いのこの業界へ飛び込みました。きっかけは、おじが同職種に関わっていたことと、当時とても懇意にしていた先輩の影響を大きく受けたためです。現場では毎日がバタバタと息つく暇もなく過ぎていきました。夜勤では28人を1人で関わり、何時間も座ることさえできないこともありました。お年寄りからありのままの感情をぶつけられることも、多々ありました。そんな中でも、目の前のお年寄りたちのちょっとした発言や言動に笑わせてもらい、一緒に楽しく過ごすことが原動力となってきました。

現在、勤めるよりあいの森特養では、地域の方と専門職と一緒に手を取り合って、目の前に転がっている高齢者問題に取り組もうとしているところです。一度崩れてしまった地域社会を、また新たに作り直すことに大変な労力と時間をさいています。しかし事業所として25年間、地域、家族とともにお年寄りを支えてきた経験値が強い糧となり、地道にはありませんが、地域に根付いた特養になってきているように思えます。

一方では、穏やかに寿命を迎えてくれることができるような場所にできるよ

う、家族とともに看取りも行っています。看取りでは、一人一人の命の重みや死のあり方を学ぶとともに、最後まで添い遂げることの大変さが身にしみています。

どの介護現場でもお年寄りとゆっくり過ごすために、職員を少しでも多く配置すると、運営に響いてくるため、ギリギリの人員配置で現場は回っています。給料が安く、過重労働の職種というイメージだけが先行してしまい、求人募集しても集まらないのも現状です。特養に勤めていると、緊急的で逼迫した相談ばかりが舞い込んできます。高齢での一人暮らしや老老介護が限界になった方々がたくさんいらっしゃいます。住み慣れた地域で暮らしていくための支援の担い手や制度が追いついていないことがその理由の一つとして挙げられます。介護報酬改定が、2015年4月に行われ、全体で2.27%引き下げられました。介護事業所全体として、今後の展望が立たず、不安ばかりが膨らみます。また、介護離職者ゼロの旗を掲げたいとも言っています。まずは、福祉専門職者、離職者を減らすための対策を練っていただきたいと思います。

また、地域包括ケアシステム構築の推進も力を入れていますが、この政策の内容として、自助や共助、介護予防の推進ばかりが目立ちます。予防の域をこえ、老いを深めた方々や障害を抱えてしまった方々への安心作りも必要です。安易に箱物を増やすのではなく、住み慣れた地域での暮らしを最後まで継続できるような社会保障制度の充実を期待しています。ありがとうございました。

○木下一億総活躍推進室代理補 ありがとうございます。それでは、最後の方でございますけれども、日々、ご家族の介護をやっておられます立山 利博さん、お願いいたします。

○立山氏 こんにちは。認知症の人と家族の会っていうのをご存知ですか。全国的に組織があります。福岡にも福岡支部があります。私は直方市ですが、直方市の認知症の家族会の男性介護担当の世話人です。今、イクメンの話もありましたが、ケアメンってご存知ですか。男性介護のことをケアメンと言っています。

私は、子どもが、息子が、長男がですね、小児麻痺と、それから精神障害を持っております。その関係から、定年退職をした後、障害福祉の運動と、それから障害施設の運営に当たってきました。今、66歳とおっしゃったのですが、私は76歳です。昭和14年生まれです。日々、フルタイムでですね、施設の運営に当たっています。妻は、9年前にアルツハイマー病になりました。6年半ほど前に、骨折で全面的に見守りが必要になってきました。いろいろな方、たくさんの方の助けを求めました。そして、その助けられながら、仕事と介護を続けていくことができました。介護保険のデイサービス、訪問ヘルプを受けながら、介護を続けてきました。ただ、私が、仕事を少し遅れてくると、ヘルパーさんは勤務を終えて帰っていらっしゃいます。そうすると、妻はひとりぼっちです。何度も、行方不明になってしまいました。朝早くから、夕は遅くまでデイサー

ビスを世話するところはないか。探しました。たいがい、デイサービスっていうのは9時とか4時で終わりますよね。ところが、朝早くから夕方遅くまで、小さなワンユニットのグループホームに3人の通所のデイサービスを取るところがあります。本当に地域に密着したグループホームです。そこで、私は朝早く、妻を8時に連れて行って、そしてそれから。すいません、時間が。

そういうケア施設がありますが、そういう施設がこれからどんどん増えていくといいと思っています。今、お話があったように、介護保険の給付は報酬単価が下がっています。前回も下がりました。前々回も下がっています。なんとか小さな施設が、運営できるように、できればいいかなと日々思っています。

このリングはわかるでしょうか。黄色のリングです。サポーター、認知症サポーターのリングです。これから認知症の問題は本当に大きな問題になってきます。この問題をなんとか私たちが解決していかねばいけないと思って、認知症会は頑張っています。すいません、長くなって。

○木下一億総活躍推進室代理補 ありがとうございます。それでは、ここで若干、意見交換をお願いします。加藤大臣の方から。

○加藤一億総活躍担当大臣 はい。みなさんからは育児、あるいは保育、介護の現場であるいはそれをされている立場からお話をいただきました。まず、角田さんにお聞きすると、全部だと言われるかもしれませんが、これから処遇改善等、あるいはこれから結婚されて子どもを持って子どもを育てながら、また保育士として働いていくという将来みすえた時に、まずこれは絶対、対応して欲しいというもの、優先順位をつけるとすれば、どういったものが最初の方にあがるのか、教えていただきたいなど。

○角田氏 はい、先ほども申し上げましたが、現在、全国的に潜在保育士さんは約60万人いると言われていまして、その方々の6割は処遇の改善をしていただければ、この職に戻ってきたいと思っているというところがありますので、やはり、保育士不足だったり、待機児童解消には、処遇の改善が一番だと思っています。そして、この保育士という仕事は専門性があるって、ただ子守をしているというわけではない。子どもの命を守っている仕事だということが、社会的に理解していただければ、今、潜在保育士さんたちももっと戻ってきたいというふうに思える社会になるのではないかなと、私は思っています。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。それでは、今、仕事をしながら田中さん、専門学校に通っておられるということですね。

○田中氏 一旦、退職しまして、学校に通っています。

○加藤一億総活躍担当大臣 すいません、失礼しました。そういう意味で、無資格あるいは未経験で入られる方も多い。もちろん、専門学校を出て入る方もいらっしゃるのですけれども。そういった方々がスキルアップするという、仕事をしながら専門学校をしていく、あるいは田中さんのように一回仕事を辞めながら、専門学校に通っていかれるということがあるかと思うのですが、そう

いうスキルアップをしていくために、もっとこういう支援があれば、いいのになというのがあれば教えていただきたいと思います。

○田中氏 そうですね、やっぱりどうしても休日を使って、そういうプラスアルファの勉強をすることになることが多いと思うので、何だろう。すごいあやふやなのですけれども、そういうのがもうちょっと、業務として認められるじゃないけれども、そういうこれからのキャリアアップの勉強というものが、もっと重視されてもいいんじゃないかなというふうに思います。

○加藤一億総活躍担当大臣 そういうところで外で勉強しようとすることに對する支援とか、そういうことですか。

○田中氏 はいそうです。

○加藤一億総活躍担当大臣 それから、せっかくなので楽しいことやうれしいことが詰まった仕事だとお話なさったのですが、その楽しいことやうれしいことを、是非、一つ二つ、ここでお教えしていただければと思うのですが。

○田中氏 それはやっぱり、目の前の利用者さんの反応が帰ってくるというのが、介護の一番の魅力だと思いますし、仕事をしていて、本当に些細なこと、ちょっとしたことで利用者さんや、先ほどお話された家族さんからもありがとうと言ってもらえる。こんなにありがたい仕事はないと私は思っています。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。安永さん、今、介護の分野に移られてから11年ということでありましてけれども、特に介護分野においては、人材を確保していくという、処遇改善が、全般が求められているわけですが、その中で、例えば、給料の問題もあります。それから、なかなか現場で、例えば腰痛があったり、いろんな労働の問題もあると思います。あるいは、両立できるような時間、フレックスな時間がとりにくいということもあると思います。全てといえばそうなのですが、特に今、直面されていて、どういったところがまず優先的にやっていくべきだと思われませんか。

○安永氏 まず、地域の中で一人暮らしのお年寄りだとか老老世帯のお年寄りの世帯がたくさん多分、埋まっている中で、その中の小さな問題がたくさんあると思うのですけれども、そこにまで手が届かない。自分の事業所の中の仕事で手一杯です。もっともっとほかに、支援しなければいけない方は、絶対的にいると思うのですけれども、そこまで目が届かないというのが、現実です。

○加藤一億総活躍担当大臣 それはなかなか人が足りないということで、数もあると思うのですが、その人がもっと来てもらうために、あるいは今、働いている方が働き続けてもらうためにも、こういう点。まず、これからやるべきだ、広く言えば処遇改善なのですが、その中でも具体的にこれだって、何かあれば。

○安永氏 やっぱり、処遇改善が第一の逼迫した問題だとは思っています。

○加藤一億総活躍担当大臣 分かりました。ありがとうございます。それから

立山さん、障害者施設の運営の方をやりながら、そして奥さまの介護をされる、まさに仕事と介護を両立されておられるということで、また、周りからいろいろな支援があったり、今のお話でありましたけれども、グループホームでショートステイができるというそうしたサービスを受けて、初めて両立ができると思うのですけれども、やはり、介護と仕事をどう両立していくか、ご自身の体験から言って、さらに例えば、こういうところに相談しに行くといいとかですね、その両立をしていくために、どういう行動を取っていけばより両立しうるようになっていくのかということ、経験をされている立場から教えていただきたいと思いますが。

○立山氏 地域で、やっぱり見守ってもらうというのは非常に大事だと思います。最近、直方にも認知症カフェがあちこちできているのですけれども、やはり認知症の家族会の活動は非常に大事だと思います。それとやっぱり、町内会の方々の支援は本当に大事だと思いますし、一番大事なのは家族ですね。家族がやっぱり一番大事なのですけど。地域と家族会活動。地域の町内会、それから家族会の活動。これからやっぱり、認知症カフェみたいなものがどんどんできていって、そして地域で見守っていくという体制が大事だと思います。

○加藤一億総活躍担当大臣 どうもありがとうございました。

○木下一億総活躍推進室代理補 ありがとうございました。それでは時間もそろそろ。12名の方と加藤大臣との意見交換ということで、終了させていただきます。本当に短い時間ではございましたけれども、貴重なご意見を伺いました。ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。ご登壇の方々に、さまざまな年代、お立場からお話を伺ってまいりました。ありがとうございました。

さて、ここで、お時間が進んでおりましたので、お時間に制限はございますが、せっかくの機会ですので、会場にいらっしゃる方の中から何名かにご意見をいただけたらと思っています。先ほどもご紹介いたしました、ちょっとお時間、進んでおりますので、お一方、1分以内で、なんとかまとめていただきまして、より多くの方にご意見いただけたらなと思っていますので、ご協力をお願いいたします。

ご意見のある方は、手を挙げていただきまして、私の方から指名させていただきます。スタッフがマイクをお持ちいたしますので、その間に、通路に出させていただきます。お名前からお願いしたいと思います。それでは、ご意見のある方、挙手をお願いします。すいません、後方のブロックの真ん中の男性の方。はい。お願いできますでしょうか。では、お名前からお願いいたします。

○質問者1 私、タカセ アキミツと申します。本日はお話、ありがとうございました。実は自分は、経営を、大学の時に会社を設立して、経営をしていたのですけれども、病気にかかってしまいまして、会社を閉じざるを得なくなったという立場になりました。その時に、雇用保険が経営者は出ないのですね。

ベンチャーの会社を作って頑張ろうという若者、結構いると思うのですよ。大学にもいましたが。そういう人たちを支援するセーフティネットみたいなものは、まだまだ足りないところがあると思うので、是非、そういうところも考えていただきたいなと思います。

○司会 ありがとうございます。それでは、続いての方にご意見を、いただきたいと思います。では、そちらの一番、右側のブロックの方で、男性の方。白いお洋服を着ている方をお願いしましょう。

○質問者2 市内で個人事業主を営んでおりますイトウ ミツルと申します。よろしく申し上げます。私自身がメディアといいますか、テレビ等をあまり見ないで、ネットでニュースを見るタイプなのですけれども、今回、質問が一点ありまして、活躍するという状態と言いますか、この社会にはいろいろな方がおられて、会社の経営されている方々とかサラリーマンの方とか、果てはホームレスの方までおられると思うのですけれども、活躍、それぞれ活躍することができると思うのですけれども、その活躍という定義と言いますか。それを知りたいと思い、今回参加させていただいたので、ここで質問をさせていただきます。すいません。よろしく申し上げます。

○司会 はい、ありがとうございます。では、続いてご意見のある方、挙手をお願いしたいと思います。では、真ん中のブロックの女性の方がいらっしゃるので、女性の方に。すいません、通路に。ありがとうございます。お名前からよろしく申し上げます。

○質問者3 フナヤマ イクノと申します。私は今、0歳から8歳の3人の子どもを育てています。今日は託児室を利用させていただきました。専業主婦です。仕事をしていないということは別に全くなんの焦りなどもなく、3人の子どもを作っているということは非常に、私はとても活躍をしていると自分で思っているのですが、是非、子育てに専念して少子化に直接的に貢献している世帯に対する、支援というか応援ということも、育児と仕事を両立していく女性ももちろんなのですが、3人、4人、5人と、子どもを持ちたいと思うと、仕事をするというよりは育児に専念するという大事をしていくことになると思いますので、そういった私たちのようないわゆる育児中の専業主婦、もしくは男性の専業主夫。夫の方の主夫でも構わないのですが、そういった未来を育てていく人たちというのも、活躍という中に入れて支援をしていただけたらなと思っています。よろしく申し上げます。

○司会 ありがとうございます。では、最後、お一方ぐらい聞けるかなと思うのですが。すいませんね、こちら。また女性の方がいらっしゃるようなので、一番端の方の、白い服をお召しになった女性の方お願いしたいと思います。お名前からお願いいたします。

○質問者4 福岡県内から来ましたヨシウラ カナコと申します。私は友達といいますか、仲間内々に同性のカップルというのが結構多くいまして、そうい

った方々に対して安心して働けたり、安心して暮らせる社会があったらいいなと思っています。今、同性パートナーシップというのが各自治体で認められるようになってきまして、だんだん広がってきているとは思いますが、まだまだ制度的には不十分かなと考えております。そういったことを国の方でもある程度整備していただければ、安心して働けたり、また子どもを育てたりとかそういうこともできるのじゃないかなと思っています。よろしく願います。

○司会 ありがとうございます。貴重なご意見をどうもありがとうございました。それでは、ここで、加藤大臣に会場から上がったご意見に対してお答えいただける範囲で結構ですので、お願いいたします。

○加藤一億総活躍担当大臣 はい。ありがとうございます。まだまだご意見を言われた方がたくさんおられる中で、時間の関係で制限させていただいて、申し訳ないと思っております。

最初のタカセさんから起業をする場合、それの方のセーフティネットというお話がありました。最初に示させていただいたスライドの中にも、最初のスライドですけれども、起業をするということを書かせていただいています。まさに起業できる方々がやっぱり安心して起業できる状況を作っていく。そういう意味では個人補償をやめるとかそういうことにもいろいろ取り組んでいますけれども、おっしゃるように、雇用保険的なものがどういったものがあるのか、その辺もしっかり議論させていただきたいと思えますし、またそういった環境が整って初めて、安心して起業していただく方が増えていき、それが経済の成長にも、またその方の活躍にもつながっていくのだろうというふうに思います。

それから、活躍するということに対することに関するご質問がありました。やはり、同じこのシートの中に、もちろん、働くということもあります。しかし、それ以外に家庭の中で、先ほどお話あったように子育てに専念をしていただく、あるいは地域社会において貢献をしていただく。さまざまな活躍というのがあるのだろうというふうに思っております。私どもは、これが活躍ということではなくて、それぞれの方々が思っている思いや希望や夢や、そういったものが実現できる環境を作っていく。そして、それを通じて、それが実現することによって、あるいは実現に向けて努力をしていただく。そういうことが一億総活躍社会だというふうに思っているところでございます。

それから、子育てに専念をされておられる。もちろん、働いて子育てをするということの両立できるようにも進めておりますけれども、子育てを専念されている方々に対しても、育児に関するいろいろなストレス等々もあるわけですし、そういった部分も含めて支援する措置というのをしっかりやらせていただきたいと思います。また、より具体的にこういったことが必要ということがあれば、随意、ご意見をいただきたいと思います。

それから最後、同性のカップル、いわゆるLGBTについてのお話がございます。



た。今、国会の中においても、私、今、自民党に属しておりますが、我が党の中でも議論が進んでおります。まあ、そういった議論を見ながら、しかし大事なことは、どういう立場の方であっても、しっかりと仕事をする機会が与えられる。あるいはさまざまなことをできる機会がしっかりと、同じように与えられる、そういう機会が提供されるのは当然のことだと思っておりますから、それに向けて、もし支障があれば、その支障を除いて、そういう方々が思いを達成できる、活動ができる、そういう状況を作っていきたい。こういうふうに思っています。

○司会 ありがとうございます。ご意見をいただいた皆さま、ありがとうございます。また、挙手をしていただいた皆さまもありがとうございます。どうぞご意見など、アンケート用紙にもご記入いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは加藤大臣、最後に本日の対話全体を通して、お言葉をお願いしたいと存じます。

○加藤一億総活躍担当大臣 今日はそれぞれご意見をいただきまして、ありがとうございます。また、ご質問にもお答えいただきまして、改めて感謝をしたいと思います。また、会場の皆さま方からも長時間お付き合いいただくのみならず、またご意見もちょうだいしたところであります。今、司会の方からありましたけれども、まだこういうことがあるよということは、是非、お手元にある紙に書いていただきたい。また、それをしっかりと読ませていただきたいと思います。

今日は、最初は職業、就職、あるいは就職に向けての教育というお話がありました。そして、短時間で働きながら、あるいは超過勤務と長時間の是正のお話、そして障害があり、あるいは高齢者の方々の就労促進、さらには育児、介護におけるさまざまな問題のお話がありました。特に、保育や介護の現場ではやはり、処遇の改善ということが大変重要だというご指摘があったということをしかりと記録をさせていただきたいと思えます。今日いただきましたそうした生のまさに声、これを最初に申し上げましたように、これから一億総活躍国民会議が毎月のように議論させていただいておりますけれども、そういう場にもしかりお示しをさせていただきながら、春にまとめるこのニッポン一億総活躍プラン、これに反映をさせていただきたいというふうに思っております。

こうした状況をしっかりと作りながら、我々はプランを作ればよいということではありません。そうした中で、そうした社会と一緒に作っていくのだという、この機運を盛り上げていきながら、それが広い意味での、先ほど申し上げた、成長と分配という大きな循環をこの日本の中に起こしていく。そして、それを通じて誰もが、それぞれの夢や希望を実現できるこういう社会に向けて、さらにこれから進んでいきたいというふうに思っています。今日はそれに向けての、この福岡の地に置ける大きな一歩になっていただければと思ったところ

であります。

今日はお付き合いいただきまして、ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。それでは、ステージ上の皆さまにご降壇いただきたいと思いますので、加藤大臣、そして皆さま、ご起立をお願いいたします。どうか、皆さま、大きな拍手でステージ上の皆さまをお送りください。加藤大臣、ありがとうございました。そして、皆さまもどうもありがとうございました。

本日はさまざまなお立場、そしてさまざまな年代の皆さまからのご意見をちょうだいいたしました。どうもありがとうございました。今一度、大きな拍手をお送りください。

さて皆さま方、いかがでしたでしょうか。本日の模様は、後日、ポータルサイト「政府広報オンライン」に動画が掲出される予定となっております。是非、ご覧いただきたいと思います。また、アンケートですが、是非、ご意見などもお書き添えいただきまして、お帰りの際に、受付または係りのものにお渡しくださいませ。

以上を持ちまして、「一億総活躍社会実現対話」を終了させていただきます。本日のご来場、誠にありがとうございました。お忘れ物ございませんように、お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

(以上)